

令和2年度 静岡県公立高等学校入学者選抜

学力検査結果等の報告書

I	学力検査結果等の概況	・・・・・・・・	1
II	各教科及び作文の概況		
	国	語	・・・・・・・・ 5
	数	学	・・・・・・・・ 6
	英	語	・・・・・・・・ 7
	社	会	・・・・・・・・ 8
	理	科	・・・・・・・・ 9
	作	文	・・・・・・・・ 10

令和2年6月

静岡県教育委員会

I 学力検査結果等の概況

1 学力検査等の実施

一般選抜は、令和2年3月4日（水）及び3月5日（木）に、全日制の課程では93校（分校等も1校と数える。）、定時制の課程では20校（学年制17校、単位制3校）で実施した。学力検査は3月4日（水）に実施し、全日制の課程については、国語・数学・英語・社会・理科の5教科について行い、学年制による定時制の課程については、国語・数学・英語・社会・理科の5教科及び作文の中から、学校が必要な教科等を選択して行った。単位制による定時制の課程では、国語・数学・英語・社会・理科の5教科又は作文により実施した。

なお、一般選抜と同日に実施した特別選抜のうち、海外帰国生徒選抜は15校、長期欠席生徒選抜は3校、連携型選抜は3校、県外生徒特色選抜は1校において、一般選抜と同様に5教科の学力検査を実施した。外国人生徒選抜を実施した9校においては、日本語基礎力検査を実施した。

検査当日、病気その他やむを得ない理由によって検査を受けられなかった者に対する追検査は、3月10日（火）に実施した。さらに、再募集を3月23日（月）に実施し、全日制の課程並びに学年制及び単位制による定時制の課程において、作文又は小論文を学校が選択して行った。

この報告書においては、3月4日（水）に実施した学力検査及び作文について報告する。

2 検査教科と検査時間

表1

教科名		国語	数学	英語	社会	理科
実施時刻	開始	9:05	10:10	11:15	12:55	14:00
	終了	9:55	11:00	12:05	13:45	14:50
検査時間		50分	50分	50分	50分	50分

※ 定時制の課程において作文を実施した学校では、国語と同一の時間に実施した。

3 学力検査及び作文問題の出題方針

学力検査問題は、次の方針に基づいて出題した。

5教科の検査問題は、中学校までの学習内容を踏まえた、基礎的・基本的なものとし、各教科の目標に即して、知識・理解、思考・判断・表現、技能、関心・意欲・態度等を広く検査できるように出題した。

また、作文問題については、受検者の身近な問題を題材として5つの作文題を示し、各実施校がこの中から2～3題を選んで出題し、受検者はその中から1題を選んだ。

4 学力検査及び作文受検者数（追検査受検者を含む。）

表 2

	令和 2 年度	平成 31 年度
全日制の課程	20,445 人	21,559 人
学年制による定時制の課程	336 人	307 人
単位制による定時制の課程	588 人	565 人
合 計	21,369 人	22,431 人

5 学力検査結果の教科別平均点、標準偏差及び得点分布

(1) 各教科の検査結果の平均点（50 点満点）及び標準偏差

表 3

	令和 2 年度		平成 31 年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
国 語	33.66	7.34	34.40	6.11
数 学	25.39	9.07	26.71	10.47
英 語	27.47	10.68	26.59	9.96
社 会	30.67	8.92	27.76	9.28
理 科	28.41	9.07	26.66	9.35
実施校数	93 校		93 校	

※ 分校等を 1 校と数える。全日制の課程のみ。

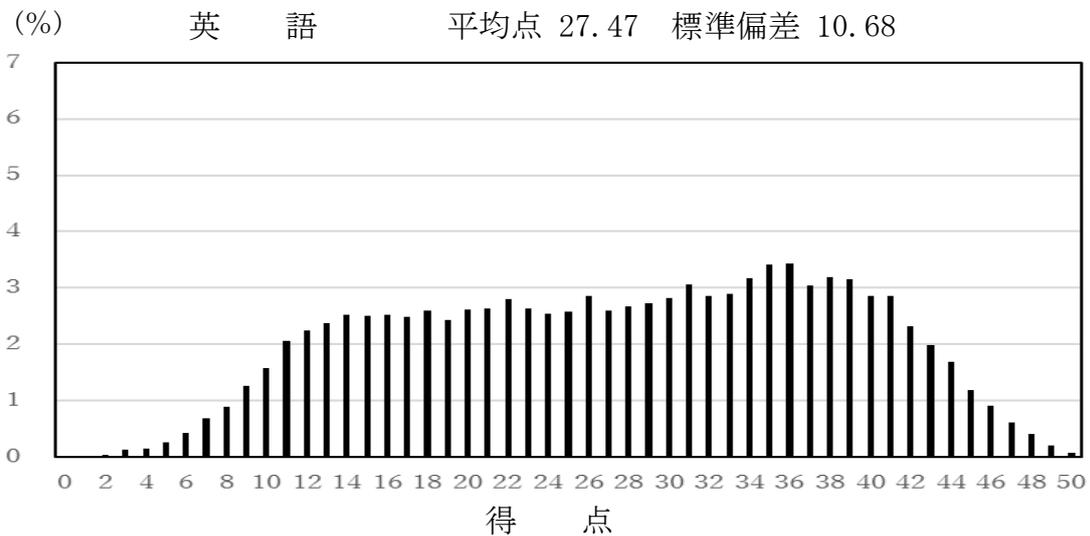
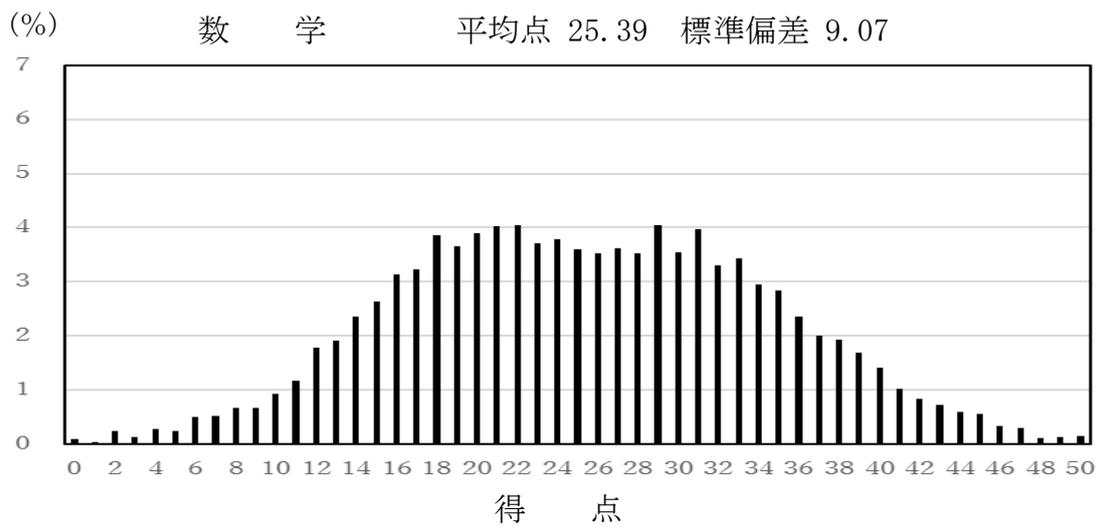
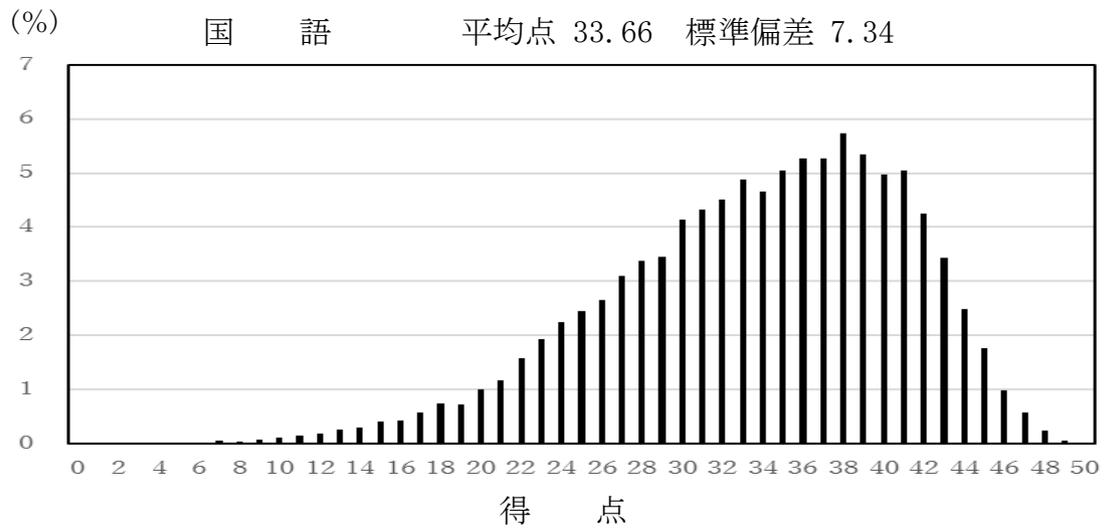
(2) 各教科の得点分布

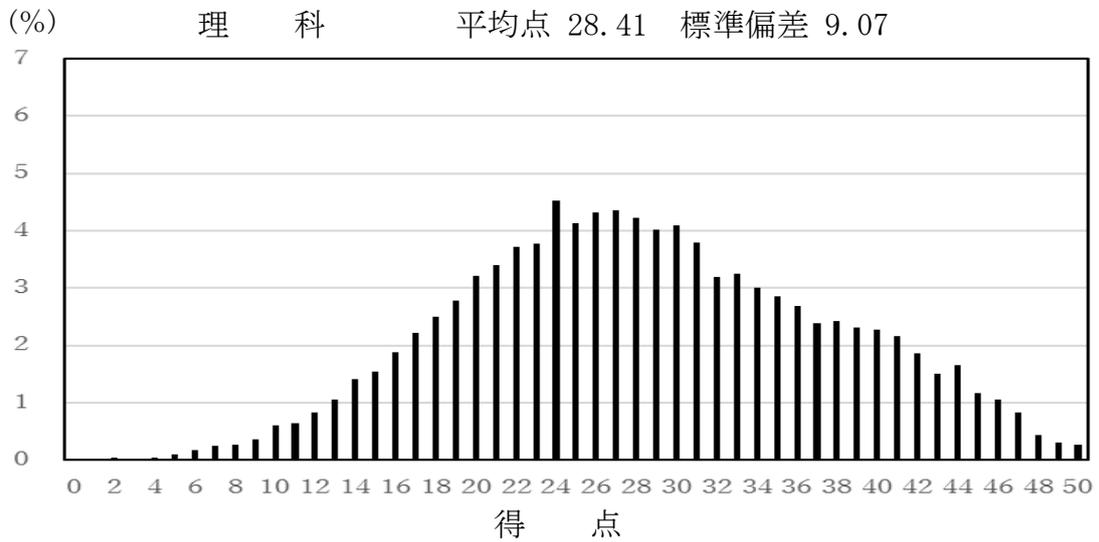
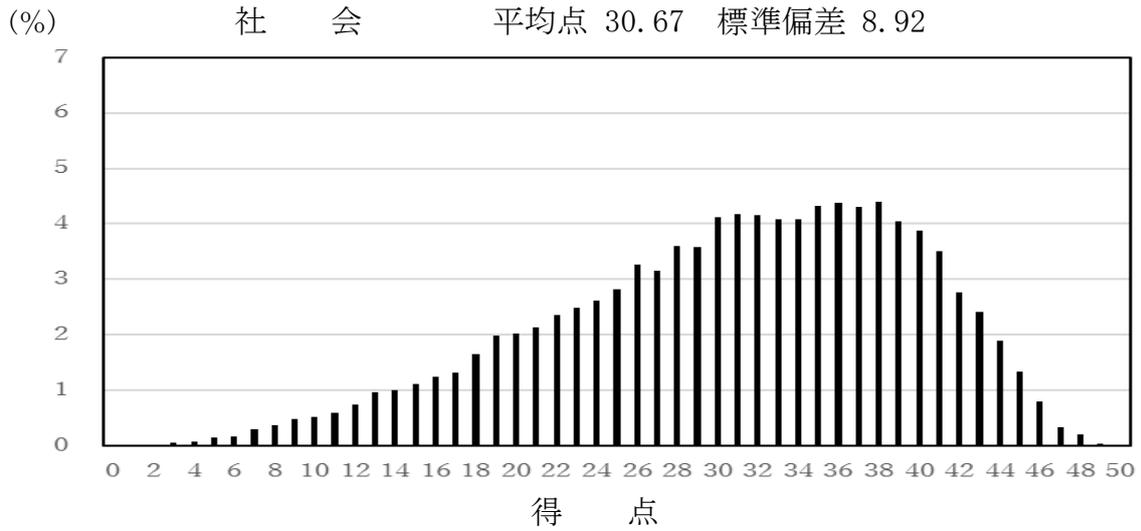
(%) 表 4

得 点	国 語		数 学		英 語		社 会		理 科	
0	0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1～5	0.1	0.0	0.9	1.2	0.6	0.5	0.3	0.5	0.2	0.7
6～10	0.3	0.2	3.3	3.7	4.8	3.7	1.8	3.3	1.7	3.7
11～15	1.3	0.6	9.9	9.0	11.7	9.6	4.4	7.5	5.5	8.4
16～20	3.5	1.9	17.8	16.2	12.6	16.1	8.2	12.1	12.6	14.1
21～25	9.4	5.8	19.2	18.4	13.2	18.7	12.4	16.3	19.5	18.3
26～30	16.7	15.0	18.3	16.5	13.7	16.7	17.7	18.0	21.0	19.7
31～35	23.4	28.9	16.5	13.1	15.4	13.5	20.8	18.9	16.1	16.1
36～40	26.6	33.2	9.4	9.5	15.7	10.8	21.0	15.7	12.1	11.8
41～45	17.0	13.7	3.7	8.0	10.0	7.6	11.9	7.2	8.4	6.0
46～49	1.8	0.9	0.9	3.5	2.1	2.6	1.4	0.5	2.6	1.2
50	0	0.0	0.1	0.8	0.1	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0

※ 右列は平成 31 年度。全日制の課程のみ。

(3) 各教科の得点分布グラフ





6 各教科の小問別正答状況

全受検者の中から約 1/50 を抽出し、各教科の小問別正答状況を調査した。その結果は、「Ⅱ 各教科及び作文の概況」において示す。

国 語

1 出題のねらい

一では話の展開や登場人物の心情を、表現の仕方に注意して読み取ることができるかをみる。
 二では筆者の考えを文章の展開に即して的確に把握する力をみる。三では社会生活に必要な、言葉によって伝え合う力をみる。四では平易な古文を読んで、話の内容をとらえることができるかをみる。五では自分の考えを文章で適切に表現する力をみる。

2 解答の状況

設問番号	解 答 の 特 徴 と 誤 答 例		正答率
一	問一	㊶ よくできている。	75.9
		㊷ 非常によくできている。	94.9
		㊸ よくできている。	89.5
		㊹ 非常によくできている。	97.7
	問二	島の位置を的確にとらえることができていない不十分な解答が多い。	42.6
	問三	よくできている。	73.8
	問四	誤答では、 エ 、 オ が多い。	46.6
問五	よくできている。	91.4	
問六	「少年」が喜ぶきっかけとなった紺野先生の行動を的確にとらえることができていない不十分な解答が多い。	40.7	
二	問一	㊶ 非常によくできている。	98.8
		㊷ 非常によくできている。	95.6
	問二	よくできている。	92.5
	問三	よくできている。	73.4
	問四	よくできている。	90.4
	問五	よくできている。	79.9
	問六	文章の展開に即して内容をとらえることができていない不十分な解答が多い。	29.5
三	問一	よくできている。	85.7
	問二	よくできている。	71.8
	問三	よくできている。	89.0
	問四	誤答では、「拝見した」「目にした」がほぼ同数みられる。	67.1
	問五	図2の工夫点を適切な言葉で表現することができていない不十分な解答が多い。	68.0
四	問一	非常によくできている。	97.7
	問二	誤答では、「アとイ」「アとウ」「イとエ」がほぼ同数みられる。	53.0
	問三	(1) 主に対する佐吉の行動を的確にとらえることができていない不十分な解答が多い。	56.9
		(2) 「いくほどなく豊かに暮らしける」となった理由を、佐吉の人物像を含めて的確にとらえることができていない不十分な解答が多い。	43.1
五	自分の立場を明確にして意見を述べようとする姿勢がみられる。自分の意見の根拠は示されているが、説得力を持つ文章となっていないものが多い。	53.0	

数 学

1 出題のねらい

1と2では数と式、図形及び確率に関する基礎的な力を、3と4では身近な事象を数学的にとらえる力を、5と6では空間図形及び関数についての理解の程度を、7では平面図形について論理的に考察する力を、それぞれみることにねらいを置いた。出題に当たっては、数学的活動を通して、事象を数学的にとらえ、表現し、考察処理する過程をみるようにした。

2 解答の状況

設問番号	解 答 の 特 徴 と 誤 答 例		正答率
1	(1)	ア 非常によくできている。	96.5
		イ 非常によくできている。	96.5
		ウ 非常によくできている。	92.3
		エ 非常によくできている。	95.1
	(2)	よくできている。	82.0
	(3)	非常によくできている。	90.3
2	(1)	よくできている。	75.9
	(2)	誤答では、150などがみられる。	57.2
	(3)	誤答では、 $\frac{1}{3}$ や $\frac{2}{5}$ などがみられる。	38.1
3	(1)	最頻値を正しく理解していないものが多い。	39.0
	(2)	正答率が低い。誤答では、 $4 \leq a \leq 16$ や $7 \leq a \leq 10$ などがみられる。	19.6
4	数量関係の正しい立式ができていないものが多い。また、どのような数量を x や y で表しているのかを明記していないものも目立つ。		50.8
5	(1)	よくできている。	79.6
	(2)	誤答では、 $2\sqrt{5}$ などがみられる。	66.7
	(3)	正答率が低い。無答も多い。	9.0
6	(1)	よくできている。	73.4
	(2)	誤答では、変化の割合ではなく変域を解答したものが目立つ。	53.2
	(3)	正答率が低い。問題を解くのに必要な点の座標を正しく求められないための誤答が多い。無答も多い。	11.2
7	(1)	三角形の相似条件「2組の角がそれぞれ等しい」において、 $\angle BCF = \angle ADE$ は説明されているが、もう1組の対応する角が等しい理由について、論理の飛躍しているものや説明の不十分なものが目立つ。	22.2
	(2)	正答率が低い。目測で求めたと思われる2などの誤答がみられる。	7.9

英 語

1 出題のねらい

1では英文を聞いて、具体的な内容や大切な部分をとらえることができるかをみる。2では対話文を読んで、話の流れや要点を的確に把握できるかをみる。3では相手に伝えたい考えや気持ちを、4では相手に伝えるべき事柄を、英語で表現する力をみる。5では物語形式の英文を読んで、話の展開や中心となる事柄を的確に読み取る力をみる。

2 解答の状況

設問番号	解 答 の 特 徴 と 誤 答 例		正答率
1	(1)	A 非常によくできている。	96.0
		B 非常によくできている。	95.8
		C 誤答では、ウが多い。	44.2
		D 誤答では、エが多い。	61.0
	(2)	1 非常によくできている。	98.1
		2 誤答では、㊦を guitar や sing としたものが目立つ。	58.3
3 話の内容を的確にとらえていないための誤答が目立つ。		19.0	
2	(1)	A よくできている。	86.2
		B よくできている。	86.7
		C 誤答では、アが多い。	68.5
	(2)	㊠ 誤答では、エが多い。	62.4
		㊡ 誤答では、ア、ウが多い。	74.3
		㊢ 誤答では、アが多い。	56.1
	(3)	既習の語句や表現形式を用いて解答しているものが多い。	38.1
(4)	誤答では、オウエイアが目立つ。	28.7	
(5)	話の内容を的確にとらえていないため、適切な部分を抜き出すことができていないものが多い。	11.9	
3	(1)	now を用いて解答しているものが多い。また、need を用いて解答しているものも目立つ。	43.6
	(2)	会話の流れを踏まえていないための不十分な解答が目立つ。	22.3
4	既習の語句や表現形式を用いて、伝えるべき内容を積極的に書こうとする姿勢がみられる。		37.8
5	(1)	㊠ 誤答では、sitting が目立つ。	47.0
		㊡ 誤答では、welled や welling などがみられる。	58.2
	(2)	誤答では、ウが多い。	66.1
	(3)	① 話の内容を的確にとらえていないための誤答が多い。	55.6
		② 話の内容を的確にとらえていないための誤答が多い。	54.7
	(4)	質問を正確にとらえていないための誤答が目立つ。	38.8
	(5)	誤答では、アが多い。	73.1
(6)	話の内容を的確にとらえていないための不十分な解答が多い。	51.5	
(7)	誤答では、イ、ウが目立つ。	44.6	

社 会

1 出題のねらい

1 では日本の歴史における政治や社会の特色、2 では自然環境や産業などからみた日本の特色、3 では国際社会の動向と特色、4 では国民生活と政治・経済とのかかわりについて、それぞれ出題した。出題に当たっては、社会的事象に対する関心と理解の程度をみるとともに、多様な資料に基づいて考察し、表現する力をみるようにした。

2 解答の状況

設問番号	解答の特徴と誤答例		正答率		
1	(1)	a	非常によくできている。	93.2	
		b	よくできている。	77.8	
	(2)		よくできている。	83.4	
	(3)		図から読み取れることについて適切に記述していない不十分な解答が多い。	59.6	
	(4)	a	誤答では、エが多い。	66.1	
		b	人々が寺院を襲った理由を適切に記述していない解答が多い。	19.2	
	(5)	a	誤答では、「幕藩体制」が多い。	9.3	
		b	よくできている。	77.2	
	(6)		誤答では、「イ→ウ→ア」が多い。	31.3	
	(7)	a	誤答では、ウが多い。	67.5	
b		よくできている。	77.9		
(8)		グラフから考えられる利点を適切に記述していない解答が多い。	39.6		
2	(1)		誤答では、「日本海」が多い。	11.0	
	(2)	a	誤答では、「宮崎」が多い。	64.0	
		b	非常によくできている。	90.7	
	(3)	a	①	非常によくできている。	92.3
			②	非常によくできている。	96.0
	b	誤答では、ウが多い。	24.5		
	(4)		よくできている。	75.9	
(5)		グラフ3の誤答では、㊸が多い。図5の誤答では、㊹が多い。	62.1		
(6)		那覇市が水不足になりやすい理由を適切に記述していない不十分な解答が多い。	56.4		
3	(1)		よくできている。	80.8	
	(2)		誤答では、㊺が多い。	65.2	
	(3)	a	誤答では、「環太平洋」が多い。	71.3	
		b	よくできている。	75.0	
	(4)	a	①	よくできている。	80.8
			②	マークがつけられている利点を適切に記述していない解答が多い。	71.0
b	リポート開発を進めようとした目的を適切に記述していない不十分な解答が多い。	57.7			
4	(1)	a	誤答では、「男女共同参画社会基本法」が多い。	48.6	
		b	よくできている。	72.9	
	(2)	a	誤答では、イが多い。	69.2	
		b	誤答では、「多党」が多い。	63.1	
	(3)	a	誤答では、「排気ガス」が目立つ。	57.2	
		b	世界全体の二酸化炭素の排出量が増えている理由を適切に記述していない不十分な解答が多い。	59.9	
	(4)		資料とグラフを基に、キャッシュレス決済が普及することで期待される日本の事業者にとっての利点を適切に記述することができていない不十分な解答が多い。	40.3	

理 科

1 出題のねらい

1 は基礎的・基本的な事項、2 は植物の生活と種類及び動物の生活と生物の変遷、3 は化学変化と原子・分子、4 は地球と宇宙、5 は気象とその変化、6 は電流とその利用及び運動とエネルギーに関する問題である。出題に当たっては、観察や実験に重点を置き、自然の事象について、知識や理解の程度及び科学的に考察する力をみるようにした。

2 解答の状況

設問番号	解答の特徴と誤答例		正答率	
1	(1)	非常によくできている。	90.7	
	(2)	非常によくできている。	96.3	
	(3)	よくできている。	80.8	
	(4)	マグマのねばりけの誤答では、「弱い」が目立つ。噴火のようすの誤答では、「おだやか」が目立つ。	72.2	
2	(1)	① 誤答では、「平行脈」が目立つ。	69.4	
		②	a 非常によくできている。	92.1
			b 非常によくできている。	91.1
		③ 非常によくできている。	88.3	
	(2)	① よくできている。	75.9	
		② 誤答では、「87.5」などがみられる。	36.1	
		③ 誤答では、 オ が多い。	57.7	
		④ ヒトが運動をしたとき、多くの酸素が血液中にとり込まれて全身に運ばれる理由を正しく理解していないための誤答が多い。	22.4	
3	(1)	① 誤答では、「熱放射」「燃焼」がみられる。	69.2	
		② よくできている。	75.8	
		③	a よくできている。	78.2
	b 誤答では、 ア が多い。		47.0	
	(2)	① よくできている。	76.2	
		②	a ビーカーに加えた石灰石の質量と発生した気体Xの質量の関係を正しく理解していないための誤答が多い。	34.6
b 誤答では、「6」などがみられる。			19.2	
4	(1)	① 非常によくできている。	88.3	
		② 非常によくできている。	88.8	
	(2)	① 誤答では、 イ 、 ウ が多い。	43.2	
		② 誤答では、 イ が目立つ。	53.5	
5	(1)	よくできている。	78.7	
	(2)	① よくできている。	78.3	
		②	a 標高の誤答では、「600」「800」「2000」などがみられる。温度の誤答では、「7.5」「5」などがみられる。	34.3
			b 誤答では、「41.7」などがみられる。	12.7
6	(1)	① 非常によくできている。	93.7	
		② 台車にはたらく重力の2つの分力を正しく理解していないための誤答が多い。	73.6	
	(2)	① 誤答では、 エ が多い。	36.7	
		② 誤答では、 ア が多い。	19.9	
		③ 記号の誤答では、 ウ が多い。理由では、位置エネルギーが等しいためコイルを通過する速さは等しくなることを正しく理解していないための誤答が多い。	25.0	
		④ 誤答では、「2.8」が目立つ。	17.3	

作 文

1 作文題名の選択状況

作文の題名	選択した 学校数	選択者数	受検者数に対する 選択者数の割合
一 これまで努力してきたこと	9 校	83 人	32.9 %
二 高校生活で挑戦したいこと	12 校	126 人	50.0 %
三 私が夢中になれること	4 校	24 人	9.5 %
四 身近な人に学んだこと	3 校	11 人	4.4 %
五 マナーについて	4 校	6 人	2.4 %
その他（注）		2 人	0.8 %
計	実施した 学校数 13 校	受検者数 252 人	100 %

（注）指定外の題名で書いた者 1 人。白紙の者 1 人。

2 概 評

(1) 内 容

- ・「これまで努力してきたこと」では、部活動や学校行事を題材にして書いたものが多かった。事実を羅列したものが目立つが、その経験を通して学んだことや、それを今後どのように生かしたいのかを述べたものもみられた。
- ・「高校生活で挑戦したいこと」では、高校生活の目標について述べているものと、将来の進路について述べているもののがみられた。新しい生活を前に決意を述べているものが多い一方で、目標実現のための具体的な展望を述べたものは少なかった。
- ・「私が夢中になれること」では、自分の趣味や興味のあることを列挙したものが多かった。事柄の説明にとどまり、そこから得られたことなど、発展的な内容を述べたものは少なかった。
- ・「マナーについて」では、マナーの大切さなど一般論にとどまるものが多かった。

(2) 表現・表記

- ・ひらがなの多用や誤字、脱字の多いものがみられる。
- ・原稿用紙の使い方、句読点の打ち方など、文章を書く上で基本となる事項を習得していないものが目立つ。
- ・書き言葉と話し言葉との区別、主述の呼応などに不適切なものがみられる。
- ・文章の構成や段落分けの意識がなく、思いつくままに文を書き連ねているものがみられる。